



大人が居場所にもできるよ  
うと訴える。本書は、生身の口  
イルモデルがほほ親と先生しかいな  
いというひきこもりの生徒が受け継  
いだ規範意識こそが、生きつらさの  
正体だ。支援のポ  
イントは、何らか  
のスキルを身につ  
けることではなく、  
教師以外の多様な  
ロールモデルとし  
ての大人と出会い、生きるスト  
ライクゾーンを広げることであ  
り、それが生きやすさにつなが  
る。これが「予防支援」としての  
校内居場所カフェの意義である。  
また、生活保護家庭を中心とし  
た「貧困コア層」は子ども食堂  
を訪れないとして、生徒たちが  
気楽に立ち寄れる学校に、あえ

本書は、学校  
にカフェをつく  
り、生徒の微弱  
なSOSをキャ  
ッチする寄り添  
い型の支援によ  
って、子どもや  
大人が居場所



**学校に居場所カフェをつくろう！**  
生きつらさを抱える  
高校生への寄り添い型支援

居場所カフェ立ち上げプロジェ  
クト 編著  
1980円 明石書店  
03-5818-1171

「貧困コア層」により、多  
様な価値を奪われた生徒たちが、  
受できるカフェの  
リラックスして享  
受できるカフェの  
中で、「多様な文  
化と価値」を獲得  
する。結果として  
「貧困コア層」の  
児童虐待の連鎖か  
ら生徒を解放し、  
より自由な生き方  
選択の「土台」に  
しようとする。さ  
らに、若者支援を  
通じてさまざまな  
団体が参加するこ  
とによって、地域の人々のつな  
がり広がり、深まるという。  
このように、「学校の役割の  
多様化」「多様な大人たちとの  
出会い」「地域の交流の場の提  
供」という課題の重要性を、校  
内カフェは示唆していると評者  
は考える。  
(前聖徳大学教授・西村美東士)

てサードプレイス(家庭、学校  
とは異なる場)をつくるよう訴  
える。そこで、教師とは違う人々  
と触れ合う。その機能について  
「安全・安心」の居場所、「ソー  
シャルワーク」の契機、「多様  
な文化の提供」の3つを挙げる。  
「貧困であること」により、多  
様な価値を奪われた生徒たちが、